

カツオノエボシ



浮袋を持つ
カツオノエ
ボシ (白浜
町臨海で)

浮袋は長さ13
センチにもなる。海
面に浮かぶ力浮
かんで、風まか

に餌を捕らえて
食べる部分や次
世代をつくる生
殖部が、林立す
るように存在し
ている。

「電気クラゲ」の異名を持
ち恐れられるのが、カツオノ
エボシである。刺されると感

久保田 信

24



電したような痛みが体中を走
るのでこの異名が付けられ
た。時には呼吸困難に陥るこ
ともあるから要注意である。
この種の特徴である浮袋は
コバルトブルー一色で、海の
青色にうまく溶け込んで姿が
分かりづらい。さらに人を刺
す毒針の詰まった触手は30センチ
ほど伸びる。このため、刺
されたとしてもその周囲で浮
袋を見つけたのは難しい。

このクラゲの本体は浮袋の
真下に垂れ下が
っている。ここ
に餌を捕らえて

せ波まかせ。黒潮に乗って太
平洋をぐるぐる回っていて、
紀南地方沿岸では晩夏から秋
にかけてよく見られる。昔か
ら「お盆を過ぎたらクラゲに
気を付けろ」と戒められたも
のだ。

浮袋内にあるガスの成分
は、驚くことに生物にとって
有害な窒素と一酸化炭素であ
る。浮袋には左右いづれかに
膨らむ肥厚部がある。北太平
洋では右に膨らんだタイプが
多く、亜熱帯では左タイプが
多いとされる。

写真は、今年初めて京都大
学瀬戸臨海実験所の北浜に漂
着した個体である。カツオノ
エボシの飼育は難しく、水族
館でもなかなか飼えない。水
流と酸素が必要なようであ
る。小さな時代はプランクト
ンとして海中を漂っているら
しいが、どれくらいで浮袋を
持つてどのように成長するか
は未知である。

存在は皆によく知られてい
るが、生態についてはほとん
ど分かっていない謎多きクラ
ゲである。(京都大学准教授)